

# 公民的分野 学習指導案（公開授業Ⅱ）

指導者 松江市立第四中学校 教諭 片山 峻

## 1. 単元名 国際社会における国家主権とは何か ～領土問題を通して～

### 2. 単元目標

国際社会に関する様々な事象と課題を通して国際社会における国家主権を理解する。

### 3. 単元構想

#### （1）教材について

本単元は、領土問題を通して国家主権について学習することをねらいとしている。領土、領域という概念は他国との関係において明確化する考えであり、例えば歴史的に言えば、聖徳太子の外交、蒙古襲来、秀吉の朝鮮出兵など、それぞれの国の勢力範囲として認識されている。近世まで島国である我が国は自然国境という概念も強く、国境線という認識は欧米諸国に比べると曖昧であった。しかし、明治期以降の近代化の過程で、欧米諸国との関係において国家という認識をもつとともに不平等条約によって国の主権を保つことの重要性を知ることになる。北方領土や竹島に関する問題は近代から現代に至る過程に端を発する。また世界には多くの領土問題が存在し、その解決の方法も様々である。

本単元で取り上げる竹島に関する問題の平和的解決は現状のところ困難であり、解のない事象である。しかし、言うまでもなく竹島は日本固有の領土であり、歴史的にも国際法上も我が国の固有の領土であるとしている。日本の国土の一部が韓国に占拠されたまま主権が侵害された状態が続くことは、国際社会における日本の主権国家としての尊厳に関わると考える。

また、現在の日韓関係についても現に問題が表面化している。例えば、竹島の日制定以後、島根県が結んでいた韓国の慶尚北道と姉妹友好関係が途絶えていることや「国連海洋法条約」発効以後の日本海における漁業問題を含む水産資源問題、そしてメタンハイドレードを含む海洋資源問題など、解決の糸口が見出せていない問題が多くある。竹島で漁業を行っていた時代を知る者はおらず、漁業をしていた孫の世代が80歳を超える時代になっている。しかし、問題の背景には竹島を思う日本人の心があり、経済資源以上に人々の安全と権利という視点からも国民の生活を守る政府の役割が問われる問題であると考えられる。

この他にも現代社会には解のない事象が多く存在する。本単元の最後に取り上げるイギリスのEU離脱に関する問題も国家主権にかかわる問題である。グローバル化が広がる世界の潮流に逆行するような国際情勢が起きつつある状況も見られる。このような情勢の中、本単元を通して解決の方法ではなく、問題の本質をとらえ、未来を生きる主権者として国際社会における国家主権の意味やあり方を考え、納得解を追求することは、未来を拓く知識や態度を育てるために有意義であると考えている。

#### （2）生徒について

<個人情報保護のため省略>

### (3) 指導について

#### ① 「単元を貫く問い」と単元構造

本単元のねらいは、領土問題そのものの理解ではなく、領土問題を通して国際社会における国家主権の意味やあり方、国家の役割について追究することをねらいとする。本単元までに生徒は、地理的分野、歴史的分野の学習において、国家及び他国との関係において国の主権について学習している。本単元においては、その学習の成果としての見方・考え方をもとにして、領土というフィルターを通して、国家の果たすべき役割について、段階的に知識を膨らませ、深化させることで、より汎用性を高め、「実践的思考力・判断力」を育成したいと考える。単元を貫く問いを「国際社会における国家主権とは何か」とし、あえて「何か」を問い続けることで生徒の多様な見方・考え方を構築していきたい。単元の前半では、個別的知識を積み重ね、その関連や関係性を考えさせながら、既習内容として、価値的に判断させ知識の深みをより増したい。

本単元では、最終的に領土問題を通して生徒が構築した国家主権に対する知識を用いて、他の国際社会の課題を改めて考えることで、さらに国家主権に対する知識をより深みのあるものとしたい。

#### ② 学習活動の工夫

ねらいを達成するために、既習の知識や単元の途中の段階を視覚的に提示し、生徒自身のポートフォリオを見直させながら、思考を深めていきたい。また、生徒同士の考え方を深めるために協働的な学習を適宜取り入れて学習を進めていきたい。また、関わりを重視した学習方法も工夫して計画的に実践していきたい。知識の「量」に加えて、知識と知識を関連付けて知識の深さや広さといった「質」を高めていきたいと考える。

4. 単元構造図

単元 「国際社会における国家主権とは何か ～領土問題を通して～」

単元目標 国際社会に関する様々な事象と課題を通して国際社会における国家主権を理解する。

単元を貫く問い  
国際社会における国家主権とは何か。

【総合的知識】

現代の社会は解決が困難であったり、解決の糸口が見えなかったりする問題が多く存在する。領土に関する問題や経済圏域の問題も一例である。この問題を問い続ける時に国家主権という視点は欠かせない。国家は、自国の「国益」の追求をめざし政策を決定するが、その際、主権は国民にあることを踏まえ、国家主権の行使においては民意を反映させることが必要である。ただし、グローバル化した世界情勢を十分考慮し、他国の国家主権の理解を基に自国の国家主権を行使していくも必要である。

問い：なぜ、イギリスはEU 離脱を選択したのか？

実践的思考力・判断

【価値的知識】

普遍的、不可侵的な人権である国民一人ひとりの自由権や平等権が他国等によって侵害される恐れが生じた時、国家は国家主権を行使して領土と国民を守る。

問い：なぜ看過できないのか。日本は何を失うことになるのか。

創造的思考力・判断力

【価値的知識】 竹島問題は日韓双方が自国の国益を追求するだけでは解決が困難である。しかし、竹島に関しては日本固有の領土である根拠があり、現状のまま看過することはできない。

創造的思考力・判断力

(解決の視点) 竹島問題はいかに解決すべきか。日韓が自国の「国益」を追求すべきか。日韓双方の「域内益」を追求すべきか。

解決の方法

日本国憲法の精神  
他国の領土問題の状況

【概念的知識】 竹島問題は、国家主権にかかわる問題であり、国家主権が侵されている状態にある。国家主権の回復を求めなければならない。

抽象的思考力・判断力

【個別的知識】  
領土問題  
① 竹島問題  
② 北方領土問題  
尖閣諸島をめぐる情勢

【個別的知識】  
竹島問題の現状  
・ 歴史的に日本の領土  
・ 韓国による不法占拠  
・ 島根県の取組と課題  
・ 政府の取組  
・ 北方領土問題との異同

【個別的知識】  
・ 国連の仕組みと役割

【個別的知識】  
・ 領土問題をめぐる日韓双方の主張  
・ 歴史の捉え方の違い

【概念的知識】

国家主権が確立している状態とは、領域が固定されていて、その範囲では政治的・経済的な独立が保たれ、他国から干渉されない状態等にあることをいう。

【個別的知識】  
国際社会における国家（主権国家）  
領域と日本の領域

【個別的知識】  
国際社会のルールと外交

具体的思考力・判断力

歴史的分野の学習における「国家主権」の概念

- ・ 日米修好通商条約における不平等条約
- ・ 帝国主義の考え方による主権侵害
- ・ サンフランシスコ平和条約による独立
- ・ 沖縄返還と今日の沖縄

地理的分野の学習における「国家主権」の概念

- ・ 世界の独立国家と国境
- ・ 日本の領土とEEZに関する問題
- ・ 地球温暖化による国家危機の問題

## 5. 単元を通して育成したい思考力・判断力

評価規準		評価資料
B評価	手立て	
国際社会における国家主権について、既習の知識をもとに、意見交換などを通して、自分の考えを吟味し、思考を深めて説明している。	ポートフォリオを見直すことで、既習の学習をふりかえるよう促す。	発言 ワークシート

## 6. 単元の指導計画（全9時間） ■教師のはたらきかけ ●生徒によるはたらきかけ ◎評価活動

時	「問い」とおもな学習活動	思考力・判断力の育成の手立て
1	<p>問い：主権国家とはどのような国家か。</p> <p>○内政不干渉の原則と主権平等の原則をもつ国であり、主権の及ぶ範囲は、領域であることを知る。</p> <p>○どこに領土問題が発生しているのか、領土問題は、どこの国と争っているのか調べる。</p> <p>○領土問題とは何の問題なのかを考える。 国家主権を侵している。自国の海洋資源が自由に開発できない。</p>	<p>■地理、歴史で学んだことを生徒が整理できるように資料を提示する。</p> <p>■世界に視野が広がるように世界地図などを有効に活用する。</p> <p>●領土問題の課題は何かを、KJ法でまとめ、生徒が理解を整理する。</p>
2	<p>問い：国際連合は、どのように国家の主権を大切にして国際紛争を解決しているのだろうか。</p> <p>○国際連合は、救済する国の主権をどのようにして守っているのか調べる。 →相手国と話し合いを行い、解決の方向性を決め、内政不干渉の原則を守る。</p> <p>○国際連合は、どのような仕事をしているのか、事例を挙げて考える。 国連インド、パキスタン軍事監視団 国連パレスチナ難民救済事業機関 ガーナモデル</p>	<p>■国際連合のしくみについて深入りしないが、国際連合の国際平和についての役割に着目するように指示する。</p> <p>●事例を教科書、資料集、インターネットを活用して収集した資料、図書館資料などで概略的にまとめる。</p>
3	<p>問い：なぜヨーロッパはEUを創ったのか。</p> <p>→各々に国益を考えるより、結果的に域内益を考えた方が、大きな利益につながる。 →軍事安全保障の優位性 →共通通貨の優位性</p> <p>○ユーロを導入するとどのようなメリットが加盟国にはあるか考える。 →小さい国が多いヨーロッパは、国内雇用も少なく、消費市場も狭い。その中で価格競争はデフレを招きやすい。</p>	<p>■地理、歴史で学んだことを生徒が整理できるように資料を提示する。</p> <p>●生徒は成果と課題を中心に着目しグループ学習ののち意見交換する。</p>
4	<p>問い：竹島に関する問題とはどのような問題だろうか。</p> <p>①竹島の位置、地形等を確認する。 ②歴史的事実を確認する。</p>	<p>■新聞記事、映像を通して、領土問題への意識を高める。</p> <p>■地理、歴史で学んだことを生徒が整理できるように資料を提示する。</p>

	<p>③島根県の取組と課題について調べる。</p> <p>④日本政府の取組について知る。</p> <p>⑤北方領土問題との違いを知る。</p> <p>○日本の主権が侵されていることにより起こっている問題は何か考える。</p>	<p>る。</p> <p>●領土学習に参加した生徒の発表を聞く。</p>
5	<p>問い:どのように竹島に関する問題を解決すべきか。</p> <p>○領土問題の解決方法について知る。</p> <p>○日本の基本的な立場を理解する。</p> <p>○他国の領土問題の解決の方法について知る。</p>	<p>■世界の領土問題の解決方法を提示することで、解決方法を考える材料とする。</p>
6	<p>○日韓が自国の「国益」を追求すべきか、日韓双方の「域内益」を追求すべきかについて考える。</p>	<p>●自分の考えをもって話し合いに参加する。</p> <p>●これまでの学習を振り返って根拠を明確にする。</p>
7	<p>問い:現在、竹島は不法に占拠されている。日本がこの問題を看過できないのはなぜか。</p> <p>→竹島は韓国が不法に占拠し、日本の領土でありながら政治や経済の面で日本の力が及ばない状態になっているから。</p> <p>→歴史的にみても、資料が多く残っており、日本の領土である資料をいくつか知ったから。</p>	<p>◎個人で考え、意見を発表した後、自分自身の意見を再度まとめる。</p>
8	<p>問い:イギリスはなぜEU離脱を選択したのか。</p> <p>○EUの抱える現状について知り、イギリスのEU離脱について、納得できる、納得できないについて根拠をもとに考える。</p>	<p>◎資料をもとにEU離脱について、自分の考えをまとめる。</p>
9 本 時	<p>問い:「イギリス国民がEU離脱を選んだこと」についてあなたは、納得できるか、納得できないか。</p> <p>○国際社会において、国家主権を行使するとき何に何を大切にしないといけないか考える。</p>	<p>●パネリストは立場を明確にし、自分の考えを説得できるように資料を準備する。</p> <p>●フロアは自分の考えと比較し判断する。</p> <p>◎パネルディスカッションを通して、自分の考えを深めている。</p> <p>●最終的な自分の意見を全体の場で発表する。</p>

## 6. 本時の学習

### (1) ねらい

イギリスのEU離脱問題を通して、国際社会における国家主権について考える。

### (2) 展開

	学習活動	指導上の留意点		
導入	1. 前時までの復習 自国の領土, 国民の信頼, 人権を守ることが, 国家が主権を守ることである。 ・ EUが抱える現状について	○単元を貫く問いをあらかじめ提示しておく。 ○パワーポイントで前時までの内容を提示する。 ○竹島の領土問題の学習をふりかえることで, 国家主権に関する概念を思い出す。 ○本時の流れを説明しておく。		
展開	2. 学習課題の提示 「イギリス国民がEU離脱を選んだこと」についてあなたは, 納得できるか, 納得できないか。  3. パネルディスカッションをする。 納得できる(2~3名), 納得できない(2~3名)のパネリストに質問するかたちで行う。	○イギリスのEU離脱の背景については前時までに学習しておく。  ○前時の学習で, 学習課題に対して自分の立場を決めておく。		
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">               &lt;納得派&gt;                ・移民が増えると雇用が減る可能性があるから。                ・国外からのテロにさらされる可能性が減るから。                ・移民受け入れに使われていた税金が本来の国民のために使われるようになるから。                ・移民受け入れを拒否することで, イギリス国民の雇用が増える可能性がある。             </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">               &lt;納得できない派&gt;                ・移民によって国内の産業が支えられていた部分が失われてしまう。                ・EUを離脱することで, アメリカなどの大国と貿易面で国際競争に勝てなくなる。                ・国境を再び作ることでテロを防ぐことにつながるとは限らない。             </td> </tr> </table>	<納得派> ・移民が増えると雇用が減る可能性があるから。 ・国外からのテロにさらされる可能性が減るから。 ・移民受け入れに使われていた税金が本来の国民のために使われるようになるから。 ・移民受け入れを拒否することで, イギリス国民の雇用が増える可能性がある。	<納得できない派> ・移民によって国内の産業が支えられていた部分が失われてしまう。 ・EUを離脱することで, アメリカなどの大国と貿易面で国際競争に勝てなくなる。 ・国境を再び作ることでテロを防ぐことにつながるとは限らない。	●パネリストは, 立場を明確にし, 自分の考えを説得できるよう資料を用いて説明する。 ●フロアは, 反対の意見に対して, 批判的思考を働かせて, 根拠をもって質問する。 ○時間設定をしておき, パネリストはフロアに戻る。  ◎パネルディスカッションを通して, 自分の考えを深めている。
	<納得派> ・移民が増えると雇用が減る可能性があるから。 ・国外からのテロにさらされる可能性が減るから。 ・移民受け入れに使われていた税金が本来の国民のために使われるようになるから。 ・移民受け入れを拒否することで, イギリス国民の雇用が増える可能性がある。	<納得できない派> ・移民によって国内の産業が支えられていた部分が失われてしまう。 ・EUを離脱することで, アメリカなどの大国と貿易面で国際競争に勝てなくなる。 ・国境を再び作ることでテロを防ぐことにつながるとは限らない。		
4. パネルディスカッションで得た知識や考えを基に, 国家主権の概念を検証する。 ・納得という立場をとれば既習の国家主権の概念に当てはまる。 ・納得できないという立場をとれば説明できない。	■自分の立場でなく, 得た知識で思考するよう促す。 ■どちらも国家主権を大切にする立場であることに気づかせる。			
まとめ	5. 国際社会において, 国家の主権を主張する場合, 何を大切にしなければならないか。 ・国と国との関係を悪化させないように互いを理解していくことが必要である。 ・自国だけのメリットだけでなく, 世界全体のメリットも考える必要がある。	●◎他の人の意見に対する評価を加えながら最終的な自分の意見を全体の場で発表する。		

### (3) 期待される生徒の姿


国際社会における国家主権について, イギリスのEU離脱問題を通して, パネルディスカッションから, 自分の考えを吟味し, 思考を深めて説明している。

**(参考) 第7時の学習**

(1) ねらい

竹島問題を通して、国家主権の本質を考えることで理解を深めることができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点								
導入	<p>1. 写真を見て、気づいたことを発表する。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の領土に韓国人が住んでいる。日本人も住むことができないのはおかしい。</li> <li>ヘリポートなど日本の許可なしに、どんどん建設され、日本は抗議しているのにおかしい。</li> </ul> <p>2. 前時までの概念を思い出す。 (単元構造図参照)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1枚の写真を見て、批判的思考が働くように声をかける。</li> <li>日本の主権が侵害されていることが理解できるように、指導や助言を行う。</li> <li>話し合いの論点を示しながら、学習の経過を視覚的に示しておく。</li> <li>既習概念(概念的知識)を思い起こさせ、国家主権に関わる問題であるという認識に立たせる。</li> </ul>								
展開	<p>3. 竹島問題をこのまま未解決にしておく 日本は何を失うことになるのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漁業をする権利が狭くなるから。</li> <li>領海や経済水域を失うことになる。</li> <li>これを許すと、領土をどんどん奪われていく恐れがある。</li> <li>もともと日本の領土なので受け入れるわけではない。歴史認識より韓国と日本の両国の利益を考える機関を設置する。</li> <li>国民一人一人を他国の侵略から守られないことを証明してしまう。</li> </ul> <p>①グループで意見交換をする。 漁業権、地下資源、EEZ、国民の権利</p> <p>②発表した意見について全体討議をする。 →グループで発表したキーワードについて、自分の考えを吟味し発表する。</p> <p>③国の役割について考える。 →国民を守ること。 政府の役割は基本的人権を守ること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が考えやすいように、以下のような手立てをしておく。</li> <li>①ポートフォリオからこれまでの学習を振り返るよう伝える。</li> <li>②単元で学習してきたことや関連性のある教科書のページを掲示しておき、適宜参考にするよう伝える。</li> <li>① これまでの知識の変化について掲示しておく。</li> </ul> <p><b>【キーワードカード】</b></p> <table border="1" data-bbox="890 1236 1331 1391"> <tr> <td>自由権</td> <td>平等権</td> </tr> <tr> <td>法律</td> <td>人権</td> </tr> <tr> <td>実効支配</td> <td>領土</td> </tr> <tr> <td>国民</td> <td></td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人で考えたあと、グループで意見交換を行う。その際、グループで出た意見をメモしておくよう補足する。</li> <li>経済的な側面に偏るようであれば、領土問題学習に参加した生徒に意見を求め、領土返還を求めて活動する人たちの声を紹介することにより、経済的な面以外にも注目するよう促す。</li> <li>生徒間で意見交換できるようにコーディネートする。</li> <li>必要であれば、批判的思考が働くように声をかける。</li> </ul>	自由権	平等権	法律	人権	実効支配	領土	国民	
自由権	平等権									
法律	人権									
実効支配	領土									
国民										
まとめ	<p>4. 国家主権についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>普遍的、不可侵的な人権である国民一人一人の自由権や平等権が他国等によって侵害される恐れが生じた時、国家は国家主権を行使して領土と国民を守る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の意見を黒板で整理しまとめる形で、概念を形成しやすくする。</li> <li>単元を通して、知識が深まってきたことを可視化する。</li> </ul>								